

## 平成27年度第1回外洋常任委員会 議事概要

2015年5月23日

文責：鈴木保夫

日時：平成27年5月23日（土）15：30～17：00

場所：東京夢の島マリーナ2F会議室

出席者：（理事）

植松眞副会長、坂谷定生常務理事 平松理事、剝岩理事  
（委員長）

吉田 外洋計測委員長、大村 ルール外洋小委員会委員長、  
鈴木（一行） 国際外洋小委員会委員長

（JSAF 事務局）

寺澤

（外洋事務局）

鈴木（保夫）

（順不同、敬称略） 合計9名

植松副会長の挨拶の後、議事に入った。

### 議事

#### （1）JSAF 内における外洋艇推進グループ組織改編について

坂谷常務理事：外洋総務委委員会を外洋常任委員会としたので、組織表を変更した。  
運営規則も「外洋常任委員会」に変更して位置付けをはっきりとした。

#### （2）ジャパンカップ2015について

坂谷常務理事：4月に締切ったところ、参加が12艇であるので開催を決定した。  
実行委員に近々連絡する。

来年は関西で行う予定だが、その折は外洋内海が協力することになるので、スタッフの半分位は入れ替わるのかなと考えている。

今後はルール通りレースの内容は変えずに行う。

#### （3）日中韓セーリングレガッタの動向について

植松副会長：予算的には500万円位かかるが収入が200万円位しか見込めないため、延期することで各国に連絡した。

#### （4）アメリカズカップの動向について

植松副会長：ソフトバンクがKYCからエントリーすることになった。

KYC、江の島YC、葉山YCの中から、青少年の育成やレースの実績等4項目を総合的に

判断して、ソフトバンクが決めた。

KYCとの契約では、KYCが訴訟と金銭は負担しないことが条件になっている。

実質的にはJSAFとKYCのアメリカズカップ委員会が共同で行う。

前回の艇だとお金が掛かりすぎるので、今回は46ftの艇となる。

チームの編成はヘルムスマン、メインシートトリマー、グラインダーマン5人の計7人となる。

2016年11月にACワールドを日本で開催したいとのこと。

#### (5) 次回の外洋加盟団体長会議の開催について

坂谷常務理事：1回目は10月3日に青森で開催する計画。

2回目は交通費の金銭的な負担もあるので、1月23日に東京で行われるJSAF全国代表者会議に合わせて翌日の24日に設定したい。

#### (6) 委員会報告

吉田外洋計測委員長：昨年度は更新講習会の年だったので、5箇所で開催を行い、新任も含めた計測員は38名となった。

鈴木国際小委員会委員長：アジアセーリング連盟の会議が11月に予定されている。

ORC年次総会が中国の海南島で11月7日～12日の間に開催される。

出席者は植松副会長、小林昇氏の予定。

スポーツ・フォー・トゥモロウ・プロジェクトを推進して行く。

大村ルール外洋小委員会委員長：合同会議の今年度の幹事はルール委員会となっている。

2月7日、8日に大阪で開催する。

6月に各委員会と連絡をとり、7～8月に加盟団体に案内する。

ジャッジのマニュアルのP節に外洋系の内容が入った。

外洋安全委員会（坂谷常務理事）：無線局の加入手続きは現在加盟する団体しか発行できないが、無線局を持っている団体が発行できるようにする。

レース外洋小委員会（坂谷常務理事）：資料の通り、外洋小委員会ミーティングにおいてオフィサー制度について検討した結果、レース委員会に次の意見を提出した。

①外洋系ROに関して、CROレベルではディンギーとの違いはないため、原稿の資料を使用する。

②AROレベルでは大きく違いが出るため、AROについては、外洋系AROセミナーを受講、受験する又は、ディンギー系のAROセミナーを受講し、さらに外洋系レースマネ

ージメントセミナーを受講したうえで外洋系 ARO 問題を受験する。

NRO については現状の制度では整備が困難と思われる。

(7) 各WG活動報告

坂谷安全危機管理WG委員長：ホームページに安全危機管理WGの議事録が載っている。

J S A F に安全危機担当組織が必要ではないかとの考え方があり、現在その方向に向かって検討している。

平松会員増強委員長：JSAF 会員増強委員会（ディンギー系）に参加しているいろいろ検討しているが、なかなか打開策が見つからず模索中である。

会員増強のためにはビジョンが必要となる。

寺澤事務局次長：会員増強にはオーナーの意識を変えることが重要と考える。

以上